

ワーカーズコープってなあに？

協同労働の法制化を！

映画「ワーカーズ」を見る会・ひろしま

【映画「ワーカーズ」ご紹介】

「ワーカーズコープ」ってご存知？ 日本で、就業するには労働契約に基づいて雇い、雇われる関係を結ぶのが一般的ですが、ワーカーズコープはこのような雇用関係ではなく、労働者一人ひとりが出資して、事業を興し経営をしていく仕組みで運営されています。その活動を描いたドキュメンタリー「Workers ワーカーズ」がこのほど、広島で上映されます。(2013年3月30日～4月12日、広島シネイン本通で上映、同封チラシ参照下さい)。



格差・貧困・孤立がすすみ、働くことに生きがいを持ってない時代、地域に必要とされる仕事を協同の力でこし、あらためて人と人、地域、社会のむすびつきの再生に挑戦するワーカーズコープが注目されています。このドキュメンタリー映画を機会に、ワーカーズコープを知っていただければと思います。

協同労働の働き方



映画の舞台はスカイツリーのお膝元、東京都墨田区。高齢化や、人間の絆が断ち切られる孤立化現象が進行するまちの中で、お母さんたちが、一時保育や夜間保育、高齢者の要求を寄せ合って新しく仕事を立ち上げ、まちの人たちと心を合わせ、助け合って地域の再生と働く場をつくり出す姿を追いながら、就職難や競争至上主義・

効率優先の「働かせ方」が横行する時代に、働く意味を問い直します。

ワーカーズコープは「労働者一人ひとりが出資者で経営者」と云う組織ですから、納得するまでとことん話し合います。収支を明らかにして、収入予算も支出も自分たちの給料も話し合っ決めて、お互いの働き方も納得のもとに進めていきます。これが「協同労働」という働き方です。



スペイン・モンドラゴン協同組合

「協同労働」は、日本ではまだあまり知られていませんが欧州では50年以上前から進められています。先日2月7日のNHK「クローズアップ現代」は、「働くみんなが“経営者”～雇用難の社会を変えられるか～」と題して、映画「ワーカーズ」の一部を紹介した後スペインのモンドラゴン協同組合の活動を紹介。成長する『協同労働』強さの秘密とは何か？」を解説しました。

欧州経済危機の中、一人の解雇者も出さず毎年事業を拡大、さらに2,000人近くの新たな就労を生み出す秘密…なぜ経済危機にも揺るがないのか？それは地域の就労・雇用を守ることを最大の使命に掲げているからとのこと。取材に「議論を重ねるため、決断まで時間がかかるのは事実だが、いったん決断が下されれば、その実践は早い。みんなが経営者としてその意味を納得しているからです」とモンドラゴン協同組合の労働者は語ります。

広島でも協同労働の協同組合として日本労働者協同組合連合会のセンター事業団・広島事業所が、病院やビルの清掃、介護、子育ての活動などを進めており、全国的には、活動の場を菜の花プロジェクト（食用・観賞・食用油・廃油燃料）をはじめ、FEC（食・エネルギー・ケア）自給コミュニティへと広げ、発展させ、こうした自給・循環する地域づくりが、働く場を創り、就労・自立を支援しています。

協同労働の法制化

地域でこうした協同のまちづくりが広がりながら、まだ日本では、国の制度が追いついていません。

株式会社は、法務局に届けるだけで「法人」登記ができますが、ワーカーズコープ＝協同労働の協同組合は対応する法律がなく、法人格が得られません。そのためこの間「協同労働の協同組合法」制定を求めた運動が広がり、812の自治体からも法制化促進の意見書が決議されたり、200人以上の国会「超党派の議員連盟」による法制化運動がありますが、まだ実現できていません。

広島県内でも、県議会をはじめ広島市、三原市、三次市、呉市、江田島市の各市議会、府中町、世羅町、熊野町の各町議会が法制化促進を議決しています。



松井広島市長・連帯の挨拶

更に、広島では、2010年設立した「ひろしま『協同労働』推進ネットワーク」（農協、生協、労協、農事組合法人などの協同組合や個人で構成）がこの法制化を進めています。



国際協同組合年の昨年（2012年）10月13日「ひろしま協同集会2012『地域・暮らし、まるごと協同』」が広島県、広島市をはじめ全市町、広島県・広島市社協、中国新聞、中国放送、広島ホームテレビ、広島テレビ、テレビ新広島の後援も受け開催され、約180人が参加しました。

ひろしま協同ネット代表の吉富啓一郎さん（県立広島大学名誉教授）の主催者あいさつに続き、来賓の松井一實市長は「協同労働がもっともっと地域レベルで広がり、最終的には国のシステムに影響するようになれば、これはひょっとすると、いわば次の全世界における労働と資本という対立概念から調和の概念に移っていくんじゃないかという気がしている。」「この広島はその象徴的な都市だ。恒久平和を願い最終兵器もあってはならないという、まさに和を追及する都市において、協同労働という皆が調和でき、共に働いて共に成果を配分しようという考え方、働き方もあるということを念頭に置いて広島市政を運営していきたい。協同労働を法制化しようという運動、本当にしっかりやっていただきたい。心から応援している。」と熱く、来賓というよりも連帯のようなあいさつをいただきました。

また、池上惇先生（京都大学名誉教授）の「地域をつくり、文化を創造する、人間発達保障労働～ワーカーズコープへの期待～」と題した基調講演に続いて、「地域・暮らし、まるごと協同」をテーマにしたパネルディスカッションは、加納三千子福山市立女子短大名誉教授のコーディネーターで、農協、生協、ワーカーズコープ、農事組合法人がそれぞれの活動を紹介しました。



人間らしく生きる社会の創造を！

最後にひろしま協同ネット副代表の黒木義昭さんが、「今年は国連が定めた国際協同組合年。世界で協同組合に参加している8億人もの仲間がいることを知ってほしい。協同組合の理念は人間が人間らしく生活できる社会の創造にある。協同ネットの取り組みはまだ小さいが、グローバル化の時代は、たくさんの小さな協同組合をつくるのが大切。この集会に参加された皆さんと一緒に協同労働の協同組合法制化をぜひ実現させたい」と締めくくりました。